



神奈川県環境学習リーダー会 会報

No. 27

2002年
6月7日

役員会報告

6月役員会 6月17日(月)

1. 飯野牧夫氏、役員退任を承認
2. 入会者1名、退会者6名の確認(会費未納者に連絡後)
3. 「親子で楽しむ環境展」の実施状況確認(来場者480名)、別途反省会を開催予定
4. 「子ども環境体験教室」の参加者募集体制強化
5. 藤沢養護学校との交流会(2学期)企画(第1回打合せ内容報告)
6. 地域別の会員名簿作成(地域単位での活動状況の把握)

7月役員会 7月22日(月)

1. 「子ども環境体験教室」実施状況と今後の応募状況の説明

カット：スカシユリ

花を真上から見ると、花びらと花びらの間にすき間があることから「透かし」ユリと名づけられました。海岸沿いの草原から岩場などで見ることができます。オレンジ色の花びらにたくさんのホクロが付いています。花期は6~8月。三浦半島天神島で写生しました。

「子どもゴミ探検隊」の中止と募集のあり方の検討

2. 地域活動の推進と環境学習(教育)のあり方について討論
3. 県受託「環境学習アドバイザー」の取り扱いについて(受託業務の考え方)
4. 「親子で楽しむ環境展」反省会を次回役員会(8月26日)時に開催

実践する環境市民団体として

環境科学センター往訪

広報部長 森 千春

6月5日、リーダー会の新役員(清水代表、石丸、児玉、小川、山田、柳川、高橋、森)が環境科学センターの片桐所長を表敬訪問しました。

席上、清水代表は「いままで2月の市民環境活動報告会をセンターとリーダー会が協力して行なってきました。6月9日の環境展は、リーダー会が主催する初めての試みで、2月と6月の年2回の環境活動が定着していくとよいと考えています。今後このような取り組みにセンターからの応援を期待したい。」

片桐所長は「展示物などほしいものが前もってわかっているならば、貸し出しはできます。6月の環境展が定着して行けば、県の後援、またセンターの協賛ができるでしょう。リーダー会は自ら実践する団体として他から受けとめられていますから、これからは測定など広い地域を対象とした活動について、他団体との連携も必要になるのではないのでしょうか? HPなどで意見の交換をし、反論を吸収して自分たちの活動に生かしてほしい。」

その他出席した他の役員から、「実践養成講座の名称をリーダー養成講座に変更して欲しい」「9期は理論と実践のうち、実践がなかったので、その後のフォローをしたいと受講を希望したが、定員オーバーで外れてしまった」などの意見が出され、所長からは「予算の関係とリーダー養成の初期の目的は果たしたと判断して名称を変更した。環境活動に関心のある人の実践者の養成をめざすために支援講座を設けており、リーダーと他との区別はできません」とのコメント。

その後、野崎氏と生駒氏との話し合いでは;
実習室について
ケナフについて

PRTRについて
講座の名称変更
子ども環境体験教室
講師派遣について

などについて幅広い意見・情報交換を行ないました。

それぞれの立場から忌憚りの無い意見交換を交わすことができるほどにセンターとリーダー会の距離が縮まったように思います。



片桐所長(左)と清水代表(右)

親子で楽しむ環境展

6月9日かながわ県民センター

広報部長 森 千春

「これが本当にゴミ?」「省エネって大切なんだね」「親の私も知らなかった電気のこと、今日は勉強になりました」さまざまな感想が寄せられた環境展。約130組の親子が来場しました。終日来場者は途切れることなく続き、親子ばかりでなく、かながわ県民センターを訪ねてきた学生さんも熱心にパネルを見、担当者に質問をしていました。

会場を訪れた行政の担当者の顔触れも多様で、県の環境計画課の白浜さん、環境科学センターの本田部長も大盛況のにぎわいに感心されていました。

“親子で楽しむ”をキーワードに環境展を行いたいと4回の会議を重ねて本番を迎えたこの日。部会やサークル、個人がかながわ県民センターで一堂に介し環境展を開催しました。

水槽には前日相模川で捕獲したという淡水生物とタンポポ・NO₂の測定マッピングは環境モニタリング部会。神奈川県の37市町村のゴミ分別カレンダーはGO3の会。おもしろ電池・エコかるたなどはエネルギー部会。ケナフ部会は展示と紙すきの実践。神奈川の自然コーナーは渡邊(5期)夫妻が出展し、



ケナフの紙すき

山に楽しむクイズを用意。捨てればゴミになる牛乳パックやペットボトルを工夫したいでおもちゃに作り替えたハッピープラザ。

展示担当者ばかりでなく、案内のチラシ配りの担当者は、効率的な配布と渡し方について経験を重ねた(?)と感想。その経験が次回に生かされることを祈ります。

今後実行委員会で反省会を開き、次年度に向けてさらに充実した環境展の準備ができることでしょうか。

すでに来年(6月8日第2日曜日)をその日に充てるのが役員会で確認されています。今年来場できなかった会員の方々、次回はぜひ会場でお会いしましょう。

子ども環境体験教室

環境科学センターで始まる

新規プロジェクト担当 木本 光昶

神奈川県環境科学センターが主催する「子ども環境体験教室」が、企画・立案、指導者の派遣などに環境学習リーダー会が協力する形で始まりました。(開催場所：環境科学センター)

調べ、観察し、作ることによって楽しく環境について考えるきっかけになることを願って企画されました。

最初の教室は6月29日に「写真立てを作ろう」というテーマで小、中学生たちが古紙を材料にして、図面を見ながら写真立てを作りました。参加者は20名程でしたが、「楽しかった」、「面白い体験ができた」、「また来てみたい」などと感想を述べる子どもが多く、なかなか好評でした。

この体験教室は6月29日から9月8日までの、主として土曜、日曜日に10教室企画されました。

この教室にはケナフ、省エネ、川、大気、自然観察などさまざまな体験コースがありますが、残念ながら一部の教室は参加者が少なくて中止となってしまいました。

8月以降に予定している教室は次ぎのとおりです。

8月6日(火)と9日(金) 調べてみよう身近な環境「大気を知ろう」

8月24日(土) 楽しい省エネ教室

9月7日(土) ケナフ染めに挑戦しよう

9月8日(日) 調べてみよう身近な環境「自然らしさを知ろう」

各教室とも定員(30名)にまだ余裕があります。会員の皆様、近隣の子どもたちへの参加呼び掛けをお願いします。

なお、教室の詳しい内容や応募方法については、会報に同封したチラシに記載されています。

【連絡先】

神奈川県環境科学センター 企画調整部
TEL 0463-24-3311

子ども環境体験教室

古紙の紙管で写真立てを作る

ケナフ部会担当 小川 正敏

6月29日午前10:00～午後3:00、環境科学センター実習室で、指導者8名（環境科学センターの生駒進、ケナフ部会の古澤正文先生、高尾一行、荒谷輝正、鈴木顕、草野弘、藤野稔、小川正敏）と子どもの参加者19名（男子2名、女子17名）特別参加の原先生（藤沢養護学校）で開催致しました。

参加者のほとんどが平塚市の子どもさんで、全体的には小学校の4年生が多いなかで4～5人の4つの班に分けられました。

生駒さんの話に始まり、古澤先生の指導のもと高尾さんがCADで作成した図面を見ながら作業に入り、鋸やカッターナイフを使うなどやや危ないと感じられる作業もありましたが、各班の指導者も生徒



さんも真剣に作業に取り組み、瞬間に午前中が過ぎてしまいました。

昼食後、『紙の話』のビデオを観賞し、紙のリサイクルの大切さ、再生紙でも使い方によっては素晴らしい機能を発揮する品物に変わるなどを学び、本教室にとってピッタリの作品で、今回の内容の盛り上げに役立ちました。

6月16日のケナフ部会での事前学習の成果もあり、終了時間の午後3時までには全員の作品が完成し、作品を片手に全員で写真を撮り、アンケートを書いて貰い、楽しく子ども環境体験教室を終了することができました。作業内容からして丁度よい人数だったと思います。

6月16日現在での参加者数7名からすると良くこれまで集められたとの印象で、関係者のご努力への感謝と子どもの同伴者で参加した柳川さんや教室の様子を見に来てくれた清水代表や石丸副代表のご出席に感謝しております。

地域における活動に活かすことができることを期待しています。

尚、両センターともインターネットで情報収集でき、環境に関する図書も配架されていますので、皆さんの活用と環境に関心のある方へのご紹介をお願いいたします。

尚、両センターともインターネットで情報収集でき、環境に関する図書も配架されていますので、皆さんの活用と環境に関心のある方へのご紹介をお願いいたします。

環境学習アドバイザー

事務局長 児玉 勇

神奈川県では今年4月から、環境学習実践者と環境学習者との情報交換の活性化を支援することを目的として、かながわ県民センター（毎金曜日）と環境科学センター（毎日曜日）に「環境学習アドバイザー」を配置いたしました。

「環境学習アドバイザー」の役割は

1)環境学習全般に関する県民からの相談への対応
2)環境学習に関する情報を収集・整理し県へ報告ですが、その内容から当会に相談があり、右表のとおり当会の会員が受託して務めております。

当会としては、県と一体となって「環境学習」の具体的な実践方法を検討する場とし、それを会員の

配置場所	県民サポートセンター11Fの情報相談コーナー	環境科学センター1Fのホール
日時	毎週金曜日 13時～18時	毎週日曜日 10時～16時
環境学習アドバイザー	児玉 勇（6期） 羽生田 洋啓（7期） 木本 光昶（8期） の3氏が交代で担当	内藤 克利（7期） 斉藤 美代子（7期） 柳川 三郎（9期） の3氏が交代で担当

ホームページ

運用状況報告

広報部 原園 信夫

会報は2ヶ月に1回発行しています。そこに載せ切れなかったもの、2ヶ月の間にホットな情報として知らせたいもの、写真で伝えたいものが判りやすいもの、環境学習リーダーの活動について、タイムリ

ーに報告して行きたいと考えています。皆さんの情報をお待ちしております。

6月、7月の主な内容：

1. モニタリング部会報告、最近の環境 map
2. 6月9日環境展報告
3. こども環境体験教室始まる
4. 秋物語2002 案内
5. GO3情報誌「環(WA)」
6. 環境7期会情報交換会報告（廃油からのローソク作りレシピ掲載）

部会活動

環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

活動報告

1. タンポポ調査活動

調査期間：3月中旬～5月中旬

調査結果が6月に入っても送付されて来る状況であったため、6月16日をもって一応締め切って環境マップを作成した。現在、ホームページの検討を行なっている。

2. ツバメ調査活動

調査期間：5月中旬～7月中旬

参加大歓迎

3. 6月NO₂測定調査活動

6月1日：捕集管組立て配付

6月6日～7日：24時間サンプリング

6月16日：濃度測定

現在、環境マップを作成し、ホームページ検討中。

4. 酒匂川水系探水隊活動

本年度は酒匂川支流にも調査の重点を拡げることとし、4月21日、年度第1回目の調査も、支流の川音川調査からスタートした。

第2回：6月8日桑原用水路・鬼柳用水路等で調査を行った。

第3回：7月20日本流と川音川の合流点付近調査。

5. 「環境展」への出展活動

部会としての展示とともに生きた水中生物(6月8

日の捕獲)を出展したため、部会員には大変ご尽力いただいた。しかし、会員の意見の中に環境をテーマとする展示として生きた生物を展示すべきではない、との発言があり、それを重く受け止めている。

6. 部会例会の開催

日時：6月1日10:30～12:30

場所：環境科学センター2F会議室

主要テーマ：

- ・「環境展」準備の進め方
- ・「子ども環境体験教室」経緯説明
- ・第2回酒匂川水系探水隊活動の進め方
- ・「ツバメ・ジョロウグモ調査票」の説明
- ・「実習室」見学

活動予定

1. 子ども環境体験教室の開催

7月21日(日)：川について調べよう

8月6日(火)および9日(金)：大気について調べよう

9月8日(日)：自然について調べよう

2. ジョロウグモ調査活動

調査期間：9月中旬～11月中旬

参加大歓迎

3. 酒匂川水系探水隊活動

実施予定日：9月22日(日)、予備日23日(祝日)

集合：JR松田駅広場、9時

調査地点：主として中津川

4. 次回部会例会

環境部会関係の「子ども環境体験教室」が終了後、9月中旬頃開催予定

自然環境部会

自然環境部会担当 柳川 三郎

ただいま、自然環境部会は、休眠状態です。そのことを知らないで私は、自然環境部会の事業担当を引き受けてしまいました。私は昨年入会した9期で、私達の前である1期から8期の皆様はどのようにお考えですか？

山と森と川は、大気の変化に伴い、あるいは、人為的な影響で自然環境は低下しています。県環境学習リーダー会の皆様がそれぞれ地域に密着して活動なされ、地域活動の中核的存在は前進していますが、リーダー会として何か目的を持つべきではないか、お考えになりませんか？

先般、県環境科学センターで先輩の皆様の専門分野・得意分野を見て非常に沢山の人が自然環境の保全に強いことが分かりました。これだけの人がいればなぜ休眠なのか、又、過去になにか活動していたのかを調査しましたが判然としていませんし、弱っているのが現状です。

それで、提案ですが、今年度の総会で清水代表が述べておられた「リーダー会の知名度も次第に上がり、活動も活発になってきた。会のあり方を2つの面から考えたい。一つは神奈川県という大きな地域から。もう一つは人材という面である。リーダー会員は神奈川全域に渡り、幅広い人材がある。その活用について、5つの部会を広く考え、多様化を図って行きたい。内向きで無く対外的に講師派遣や展示会などの活動を考えていく、地域に密着した活動を展開できる中核団体を目指したい」との挨拶でした。この挨拶の通りリーダー会の皆様が地域でがんばって行動しているなかに、これから地域で活動しようとする人へのヒントが、また、活動しているなかでの悩み等について、リーダー会員の環境学習の向上になればと考えています。

自然環境について共に考える環境学習を開催したいと提案します。私(柳川)の提案に協力していただける人の連絡をお待ちしています。

Tel 0463-59-2000 (Fax 共用)

メール sm-y@dab.hi-ho.ne.jp

エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告

1. “親子で楽しむ環境展” 出展

6月9日(日)10時~16時、かながわ県民センター1階展示場にて実施。

ホバークラフト、リニアモーター、備長炭電池、酢の電池等、おもしろ電池。中でもホバークラフトは、宙に浮いている仕組みを探ろうと、横からのぞき込んだり、子供達に人気がありました。

手回し発電機：大きいものは、豆電球を明るくするには力の入れ方にコツがあるのでなかなか骨が折れ、それがかえって子供達には人気があり、豆電球に灯りがつくまで顔を真っ赤に力んで何回も挑戦したりしていました。

エコカルタ：今回は、来場の子ども達でカルタ取りが出来るようにしたいと考えています。大人には人気で、希望者にはお分けできるようにしたいと思っています。

省エネ(実践)コーナー：今回は、映像を利用した実行プログラムに、会場で挑戦できるようにしたいと考えています。

2. 部会

5月16日 “親子で楽しむ環境展”の打合せ

6月23日 年間計画再調整

7月21日 “省エネ教室”の打合せ

7月28日 “子ども環境体験教室”の打合せ

3. 7月の活動

第4回夏休み“親と子の楽しい省エネ教室”
(13:00~16:00)

日時：7月21日(日)11時~17時

場所：かながわ県民活動センター 708

対象：小学生以上の親子

子ども環境体験教室 (13:00~16:00)

日時：7月28日(日)11時~16時半

場所：神奈川県環境科学センター

対象：小学4年生以上

活動予定

1. 子ども環境体験教室

日時：8月24日(土)11時~16時半

場所：神奈川県環境科学センター

2. 第5回親と子の楽しい省エネ教室

日時：10月13日(日)11時~17時

場所：かながわ県民活動センター 604

3. 部会

日時：8月18日(日)14時~17時

場所：かながわ県民活動センター 701

内容：“第4回親と子の楽しい省エネ教室”“子ども環境体験教室”の反省と次回“教室”の打合せ・準備。

“省エネ学習・教室”メニュー作りの打合せ。

日時：9月22日(日)14時~17時

場所：かながわ県民活動センター 701

内容：“子ども環境体験教室”の反省。

“第5回省エネ教室”の準備。

“省エネ学習・教室”メニュー作り。

日時：10月27日(日)14時~17時

場所：かながわ県民活動センター 704

内容：磯子区生涯学習講座講師派遣、“第6回省エネ教室”(11/17)打合せ・準備。

“省エネ学習・教室”メニュー作り。

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

活動報告(5月~7月のケナフ部員が携わる活動)

1. ケナフの発育状況

ケナフの種まきを4/20に実施したが、品種によって、発芽しないのもあり、5月に再度種を蒔き直したものもあり、2度蒔き直したものもあるので畑の成長は非常に不揃いな状態であります。7月中旬現在背丈2m近くになり、花が咲いているものから、15cm程度のものと、この期間天候が不順で有ったことが影響しているようです。

2. 5月9日~14日 平塚ケナフフェア開催

昨年度の活動した内容として、ケナフ染め、聖ヨゼフ小学校、愛川町の菅原小学校の紙漉指導したときの作文、作品を紹介した。特にケナフ染めは、他の団体からの出品は皆無で大変注目された。

3. 6月9日環境展に参加

「親子で楽しむ環境展」にケナフ部会の活動状況及び紙漉の実演を実施。特に子供達には紙漉は大変

楽しい体験であり、ケナフについて大変興味を持って貰いました。また、清水代表から特別出品して頂いた「塩の結晶で出来た王冠」には参観者が大変注目をしました。

4. 6月29日「子ども環境体験教室」

「再生紙を使って、写真立てを作る」開催、盛況時に終わる。詳細は別途報告します。

5. その他

5.1. 6月13日 静岡大学農学部資源学科に乾燥ケナフ15kg送付。農業生産で発生する繊維系の材料や廃棄される材料を資源として利用することの研究材料に供するため。

5.2. 7月4日 横浜市立寺尾小学校「花壇の緑化」ケナフの栽培に取り組みもうの活動で小川、兎玉さんが訪問、種植え指導及び資料提供をする。

5.3. 7月20日 相模原土鍋の会、日本に住む外国人の子供の集まりに、紙漉指導。荒谷、小川、安部さん予定

5.4. ケナフ種の欲しいとの連絡が多数来ています。

活動予定(8月~10月)

8月1日 平塚市消費者センター主催「夏休み親子消費者教室 ケナフによる花染め教室」

8月1日 ケナフ部会 環境科学センター高橋研究官から「臭いの吸収装置操作方法」を教える

~~~~~

## 廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

廃棄物・リサイクル部会を担当して3ヶ月、今までの取り組みや経緯も含めてどんな期待があるのか関係各位から意見や要望を伺って来ました。その結果、部会の性格からして“地域住民の日常活動を通して取り組む”ことを前提に考えて行く事ではないか考えました。

第1回会合 5月30日 「地域での環境保全展開について」

会合の趣旨「廃棄物・リサイクル部会」として“地域住民の日常活動を通して取り組む”活動の有意性・効果性を高めるために、

- ・目標に関わること(将来達成したい地域社会の姿・指標や目標値など)
- ・活動課題(内容)に関わること。相互の関連性を踏まえ優先順位を考える。
- ・展開方法やシステムに関わること、また関係主体への働きかけ・連携法など。

呼びかけ：県央地区 座間・海老名・厚木・伊勢原・秦野 地区在住の方。

会場：海老名市市民活動センター

出席者：(敬称略)内藤、岩田、市川、原、石丸の5人で活発に意見が出ました。

今後の目標として

環境学習リーダー会として会員の活動の場としての課題(テーマ)を考える。

行政区単位での地域住民(主に自治会単位で)の問題意識やニーズと可能性、市町村(役所)等へ

う

8月22日 平塚市消費者センター主催「夏休み親子消費者教室 ケナフによる花染め教室」

9月7日 環境科学センター主催「子ども環境体験教室」“ケナフ染めに挑戦しよう”

の期待や可能性などの打診

9月ぐらいまでの期間で今後の活動・展開の道筋をつけたい。

第2回会合 6月20日 「環境にやさしい地域づくりに向けて」

会場：海老名市市民活動センター

出席者：(敬称略)市川、磐田、紫牟田、原(海老名市市民)、石丸

会合の趣旨：「環境にやさしい地域づくり」に向けて地域団体・自治会や行政への働きなど。その課題と方法等。活発な意見が出ました。

次回会合にむけて

行政や自治会等に働きかけ、地域の環境問題への関心やニーズを明確にする為のアンケート(質問紙)の質問項目の検討。(案・選好度調査方式)

「廃棄物・リサイクル部会」今後の活動予定

下記のコンセプトとリーダー会の役割を考え9月ぐらいまでに今後の活動・展開の道筋をつけ、10月頃からフィールドの展開に入るべく関係者努力中。関心ある方、協力してもらえらる方大歓迎。参加をお待ちします。連絡乞う。

1.ひとと環境にやさしいまちづくりのコンセプト(左下図参照、要検討)

2.環境学習リーダー会の使命と役割(右下図参照、要検討)

第3回会合 7月25日 「人と環境にやさしい地域づくり」

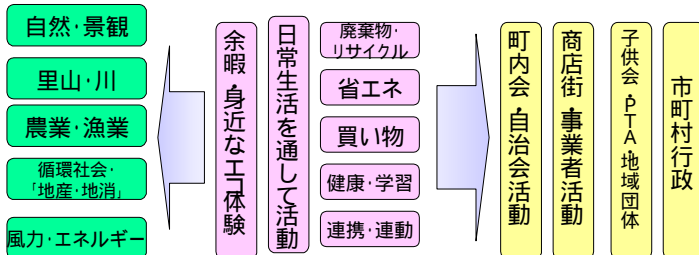
特にニーズを明確にする為の質問紙作成と今後の展開(会場：厚木市総合福祉センター)

### 「ひと」と「環境」にやさしいまちづくり

地域資源の活用と保全

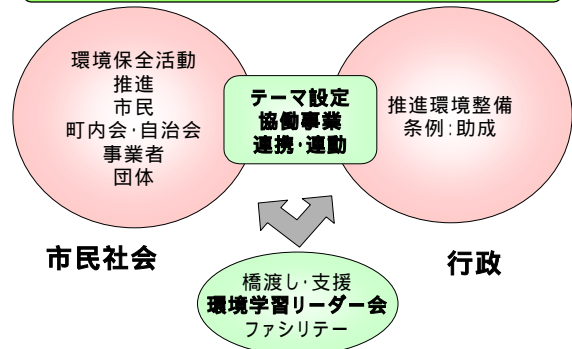
生活の質・豊かさの向上

住み良いまちづくり活動



質問紙活用による選好度調査とモデル地域の推進

### 関係者の協働・パートナーシップづくり



## 会員の広場

### こども環境体験

～ 田植え 2002 ～

山口 洋子（7期）

6月8日、小学生とその親あわせて10名で、広さ

三畝ほどの田んぼに稲を手植えた。子どもたちを誘っての田植えは今年で三回目。今年は我が家の子どもたちとこどもエコクラブをつくったので、市の環境政策課にもクラブ活動の一環として紹介し参加者を募り、又学童保育所にも声をかけたりし



おりしも、ゲーム脳のことが新聞にとりあげられた。かつての大人たちがそうであったように、子どもの心と体を育むことは私たちの義務であり、農地はただの生産工場ではないことを今後も訴えたいと思っている。

### きれいな街

田村 了一（8期）

「世界で最も美しい街」、「光の街」などさまざまな称賛の言葉を浴びているパースの街は西オーストラリアの州都である。西オーストラリア州の面積は日本の約7倍、そして人口は僅か180万人。その内3分の1の約60万人がパース首都圏で生活している。この首都圏の面積は横浜市よりやや大きい445平方キロ、ゆったりと生活できる訳である。

私はこの街が好きでここ数年、毎年この街にかよっている。昨年（9月）の一ヶ月間、家を借りワイルドフラワーと共に過ごし、今年は秋の三ヶ月間を過ごしてきた。昨年の滞在中この街で日本の伝統文化を紹介する店の人と知り合いになった。私は6年程前から趣味で掛軸や屏風作りをしているが、パースでこの掛軸作りの教室を開いてみようと言うことになり、三ヶ月と言う長期の滞在になった。

パースの街はその中央にスワン川と言う大きな川が流れ、この川に沿って高層ビルが林立している。今回、私は高層ビル群の対岸になる、南パースに家を借りた。この南パースは中高級住宅街で、正に公園の中に住宅があるという環境であった。この都市の特徴は「自然と共存する清潔で美しい街並み」であって、何処を歩いても素晴らしいと言う感嘆の声になってしまうが、特にこの南パースの夜景は鳥肌が立つような美しさであった。今回の滞在の目的は日本の伝統文化をこの地の人と楽しむことであり、そして私も夫婦がこの地の生活にとけ込み、エンジョイすると言うことであったので、環境に関する調査はしなかった。ただ三ヶ月間住んでみて知り

た。原園氏の手をわずらわせてわんぱく探検隊（平塚青年会議所）の関係者の方に紹介していただいたりもした。

地元の小学校でも総合学習の一部として授業の中に田植えやその他の農作業がたびたびとりあげられてはいる。しかしそれは非日常的な体験としてこどものふだんの生活とは切り離され授業時間が終わってしまえば再び田や畑はこどもの生活に無関係な空間になってしまう。

えたこと、感じたことをいくつかあげてみる。

1. スワン川はパースの街から20キロ程下流でインド洋に至る。このインド洋に面した白砂の海浜は70キロにも及び、大気汚染に無縁なことから、素晴らしいサンセットをしばしばみることが出来た。
2. こんなゆったりとした都市でも自動車による大気汚染を防止する為、パークアンドライドが実施されている。極力都心に車が集中しないように、駅前には駐車場が開放されているし、高速道路の途中に巨大な駐車場を設け、そこからバスで都心に入るよう奨励している。
3. この国の樹木の大半は生長の速いユーカリが占めている。余りに生長が速いので、絶えず至る所で枝落としをしているが、この現場には必ずチップパーを持ってきていて、チップとして回収し、都心にあるコンポスト工場で熟成させ、有機肥料として使っている。都心の素晴らしい公園の隣に大きなコンポスト工場があるのには驚いた。
4. 生態系の保護を最重要課題としていて、このため入国審査がとても厳しい。この大陸は歴史的に独立した時期が遅かったため、独自の自然が保存されている。他の地域から害虫、種子、病原菌などが持ち込まれた場合、その生態系が破壊されてしまう可能性が大きく、その保護のため厳しい入国審査を行っている。時には靴の裏までチェックされる。
5. 森林の保護に人工的な山火事を行っている。一種の山焼きで、計画的に地域を決め焼いている。種子には高熱にさらされることによって発芽するものがあり、新しい命の誕生と共に、害虫駆除をもでき、森林の再生となっている。

私と同期の安丸夫妻がザンビアから健康休暇でパースにやって来て、我が家に数日間泊まって行った。

彼はこの街をザンビアと比較して、「お伽の国」だと表現して帰国して行った。

## 冊子「芦名の谷 松越川源流を歩く」を作成

森 千春（7期）

「大楠の四季を愛するつどい」は、一年間、三浦半島・大楠山の松越川の自然観察を続けてきたその記録をこの五月、一冊の本にまとめました。これは芦名の谷の四季を文章と草木の花、小動物の写真やイラスト、地図などで紹介したものです。

毎月谷を訪れ、木や草の花、昆虫や鳥を自分たちの目で確認したらもっと谷を理解し、大切にしたいかならないかと始めたことがきっかけです。最初はメモ書きだったものが、谷への道筋を地図に起こし、そこで見たものを記録していくうちに、小さな生きものたちへの関心も深まってきました。仲間の一人が「雑草ばかりの草むらだとばかり思っていたのに、観察を続けるうちに谷が愛しくなってきた」といいました。豊かな生態系を実感していく時



冊子「芦名の谷 - 松越川源流を歩く」の表紙

間でした。印刷・製本はすべて手作りで、作業を通して仲間の一体感も強まりました。

横須賀市のサポートセンター（汐入）の図書コーナーに展示されています。

芦名の谷は神奈川県の産業廃棄物の最終処分場に予定されていて、この5月に横須賀市は建設の許可を下ろしました。豊かな生態系を持つ緑の山と川がまたひとつ無くなります。

## 会員が自主勉強会

羽生田 洋啓（7期）

7期修了者の有志が去る7月7日に環境科学センターに集まって、自主的勉強会（情報交換会と呼んでいる）を開催した。7期修了者の有志はこの種の勉強会を、養成講座終了以来継続して開催している。毎年3回の開催で、今回の勉強会は3年目の第1回である。

参加者は7期修了者が主体であるが、他の期の修了者にも参加を呼びかけている。今回の参加者数は計16名で、他の期の修了者の参加もあった。

今回の勉強会のテーマは下記3件の実習あるいは発表であった。

実習「廃油からローソクを作る」

（説明者：土屋 智絵、7期）

発表「里山整備活動を報告する」

（説明者：中村 孝夫、7期）

発表「京都議定書に伴う市民のCO2排出削減」（説明者：羽生田 洋啓、7期）

は、揚げ物油の廃油を使って、ローソクを作る実習である。参加者は嬉々としてローソク作りに励ん

でいた。このローソク作りは、小中学生向けの環境学習手段の一つであるが、大人も楽しめた。

は、手入れされていない地元の里山を、発表者が中心になって昨年からは整備し始めた活動の報告である。報告後、質疑応答と発表者へのアドバイスが活発に行なわれた。

は、京都議定書の発効に向けての現状説明と、京都議定書に基づくCO2排出削減のための市民の行動の概観である。報告後、参加者間で活発な意見交換が行なわれた。

なお、ローソク作りの実習は環境科学センターの実習室を使わせていただいた。新しい設備が整った部屋で快適に実習をすることが出来た。



里山整備活動で、きれいに整備された森の木々



# = 豆知識のページ =

## ハッピープラザ

ハッピープラザは厚木市を中心に、地域に密着した環境活動をおこなっているグループです。グループの代表山田あや子さんに、その活動についてお聞きしました。

### 1. 生い立ちと活動目的

自分たちの身近なことから始めようと、廃油の回収などを目的として平成6年に設立されたが、平成9年決議された京都議定書がきっかけとなって、地球温暖化防止活動に役立つことを実践しようと本格的な活動をおこなうことになった。

ハッピープラザはその名前のおり、メンバーの一人一人が目的意識をもって行動するために、身近な、判りやすいことから環境問題に取り組み、間口を広げて楽しく活動することを目的としている。

### 2. グループのメンバー

中学校のPTAで知り合ったお母さんたちや仕事仲間約10名(全て女性)で、ほとんどが厚木市の依知地区に住む人たちであり、日頃から気心の知れた仲間がメンバーである。

### 3. 最近の主な活動

1) 平成13年11月厚木市依知北公民館で、省エネをテーマに家庭の電気製品やガス器具の上手な使い方によって、省エネやCO<sub>2</sub>の削減ができることをピラで展示したり、テレビ、ビデオ蛍光灯

などの待機電力の測定を体験してもらった。

2) 平成14年6月かながわ県民活動サポートセンターで開催された神奈川県環境学習リーダー会主催の「環境展」に出展した。テーマは「できることから始める環境コーナー」で、参加者に地球温暖化防止の意識を持ってもらうために、家庭の電気製品の省エネに役立つ使い方やガス、水道の節減によって経費の節減がどの程度できるかなどをPRした。また、子どもたちに興味を持ってもらうためペットボトル、牛乳パックなどで作った作品も展示した。

そして、CO<sub>2</sub>、SO<sub>2</sub>、NO<sub>2</sub>などの汚染ガスの吸収に優れているヒマラヤザクラの苗木を展示し、苗木を育てることによって空気の浄化に役立つことを説明した。

3) 小学校の総合学習の支援。厚木市内の小学校の依頼により、ケナフの紙すきの講習をしたり、省エネ関連のビデオの放映をして総合学習の支援を定期的におこなっている。

### 4. これからの活動

基本的には現在おこなっている環境活動を継続することになるが、特に総合学習には力をいれて子どもたちとの触れあいを大切にしていきたい。

### 5. 連絡先

ハッピープラザ代表 山田 あや子  
〒243-0803 厚木市山際203-4  
TEL 046-245-5563  
FAX 046-245-5174  
Eメール siro@jeans.ocn.ne.jp

## かながわエコリーダー会

去る6月9日に環境学習リーダー会が主催した「親子で楽しむ環境展」に「かながわの自然・チョッピリ体験」を出展した渡邊吉一さん(5期)に「かながわエコリーダー会」についてお聞きしました。渡邊吉一さんはその会の代表を務めています。

### 1. かながわエコリーダー会とは?

神奈川県内の自然環境保全に関わる催し(環境学習活動・環境保全活動)を実施あるいは指導する人たちの会で、平成11年1月に発足しました。

### 2. 会員はどんな人?

会員は現在21名いますが、どの会員も自然環境保全に関わりがあるリーダー資格等の一つ又はいく

つか持っています。そのリーダー資格等とは次のものです。

- ・環境カウンセラー
- ・神奈川県自然公園指導員
- ・神奈川県自然観察指導員
- ・神奈川県環境学習リーダー
- ・神奈川県地球温暖化防止活動推進員
- ・日本自然保護協会自然観察指導員

ちなみに、会の代表である渡邊さんは上記の資格等をすべて所有しています。また、会員の中には神奈川県環境学習リーダーでもある人が何人もいます。

なお、会ではリーダー資格の有無にこだわらずに、次のような人を会員として随時募集しています。

『自然環境保全活動に熱意があり、継続してリーダー的な活動をする人』

リーダー資格はないが資格取得を目指す人に対

しては、そのような人がリーダーになれるように会が育成をします。すなわち、資格取得を目指す人は資格所有者のアシスタントとして活動してもらい、資格を取得しやすくすることによりリーダー育成を行ないます。

### 3. 会の活動は？

会の活動の主なものは、自然環境保全に関わる催しをプロデュースすることです。具体的には、一般市民あるいは児童を対象に行なわれる自然観察会、野鳥観察会、水生生物観察会、登山、ハイキングなどの催し（公共団体などの主催による催し）の形態を通じて環境学習を実施あるいは指導することが主体ですが、これだけに限っているわけではありません。会員は、そのような催しの企画あるいは実施の

ために派遣されて、リーダー的な役割あるいはアシスタントの役割をします。

活動の場は丹沢大山国定公園、県立自然公園、県立自然保護センター、相模川、引地川（藤沢市）、水無川（秦野市）などが中心です。

今年は「国際山岳年」、上記の他に会が現在受託している事業として、「山のトイレさわやか運動（田部井淳子代表）」からの依頼による丹沢の水質調査があります。丹沢の登山路にある水場 10ヶ所の水質を今夏 3ヶ月に渡って 30回測定するものです。

### 4. 連絡先

かながわエコリーダー会 代表 渡邊 吉一  
〒251-0003 藤沢市柄沢 297-10  
電話・FAX 0466-25-5456

## 掲示板

### 飯野氏役員退任と後任のお知らせ

今年度の役員として選出された環境モニタリング部会事業担当、飯野牧夫氏から 5月17日付で清水代表に「一身上の都合」で退任依頼届けがなされ、6月の役員会でこれが受理されました。

後任として小川ケナフ部会担当役員が兼務することになりました。

### ラジオ番組に登場

「環境学習アドバイザー」の一人である斉藤美代子さんが下記ラジオ番組に登場して、「環境学習アドバイザー」のPRをいたします。

ラジオ日本 1422kHz、8月6日 15:35～15:40  
「夏木ゆたかの演歌いちばん」

### 7期の情報交換会

環境7期会の次回情報交換会は10月5日(土)環境科学センターで行なわれます。

テーマは“ごみ問題”の予定。詳細内容は後日。

7期以外の方もご参加ください。

### 環境カウンセラー募集

平成14年度の「環境カウンセラー募集」が始まりました。

E-mail所有者には、事前説明会(下記)の案内を送りました。

日時 8月3日(土) 13:00～15:00

場所 平塚中央公民館 3B会議室

講師 近藤作司、原園信夫

この会報を見て事前説明会へ参加される方は、資

料を用意する都合上、下記まで連絡をお願いします。

説明会実施者 原園信夫

TEL/FAX 0463-34-5738

e-mail harazono@eva.hi-ho.ne.jp

申込者が少ない場合は事前説明会を中止する場合があります。

独自にチャレンジされる方は下記から募集要項が入手できますので、入手しチャレンジ願います。

財団法人 日本環境協会

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-7-2

虎の門高木ビル7階

TEL 0-3508-2651

FAX 03-3508-2570

申請受付期間(募集期間)

平成14年9月1日(日)～9月30日(月)

環境カウンセラーURL

<http://www.env.go.jp/policy/counsel/>

### 編集後記

会員の環境活動の情報を皆様に提供することが「会報」の大きな役割の一つですが、部会のような組織的な活動だけではなく、地域を拠点として地道に活動している個人または小さなグループの紹介にも注力していきたいと考えています。

こうした情報を広報部だけで収集するには限界があります。皆様からの情報提供によって、より充実したものになりたいと思っています。ご協力よろしく願います。

広報部 木本 光昶

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 清水 幸夫

編集人： 広報部長 森 千春

TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837

発行日： 2002年7月28日